

# AMDA

## 多様性の共存

# ジャーナル

2019 年 7 月 25 日 VOL.42 第 290 号 定価 550 円  
 発行 / AMDA 〒700-0013 岡山市北区伊福町 3-31-1  
 TEL 086-252-7700 FAX 086-252-7717  
 E-mail: member@amda.or.jp  
 郵便振替: 01250-2-40709 口座名: 特定非営利活動法人アムダ

2019 年  
夏号

夏

救える命があればどこへでも

連載インタビュー「支える喜び」シリーズ 第 21 回

高杉こどもクリニック 院長 高杉 尚志様

特定非営利活動法人アムダ (AMDA)  
<https://amda.or.jp/>  
 特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構  
<https://www.amda-minds.org/>  
 特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター  
<https://www.amdamedicalcenter.com/>  
 AMDA 兵庫  
<http://amda-hyogo.com/>

**AMDA** 昨年の西日本豪雨災害で当時、災害発生翌日の 7 月 7 日から動かれました。

**高杉** 7 日に AMDA から電話が入り総社市で合流、避難所に向かいました。定期薬を持たない慢性疾患の方、介護が必要な方が多数いました。素早く吉備医師会の医師などに連絡をとり、7 月 8 日朝には救護所の開設にこぎつけました。

**AMDA** 先生は総社市で生まれ育ち、高知医科大学（現高知大学医学部）に入学されました。

**高杉** 高校時代に司馬遼太郎の「竜馬がゆく」を読み憧れました。18 歳の多感な時代の熱い思いでした。

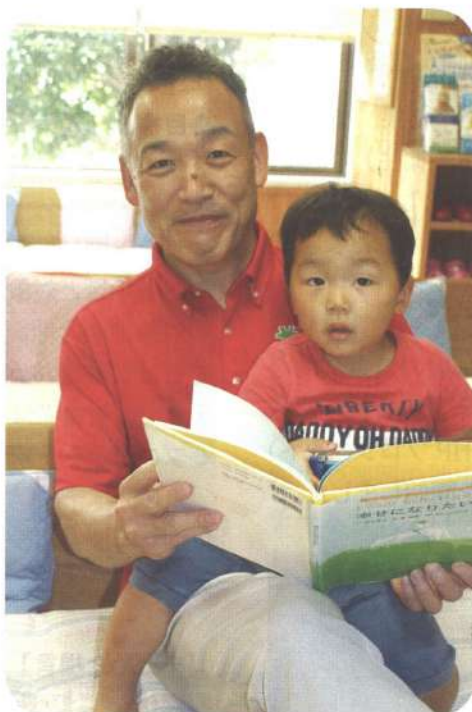
**AMDA** 小児科を選ばれた理由を教えてください。

**高杉** 小児科医は、子どもの人生の長い期間に、関わることによりやりがいがあります。その子に未来を託し、幸せな社会づくりへ貢献したいと思っています。

**AMDA** AMDA 理事長の菅波茂との出会いのきっかけをお聞かせください。

**高杉** 2006 年に高知で開催された

AMDA を支えてくださっている支援者の皆様に、インタビュー形式で様々なエピソードをお伺いしている「支える喜びシリーズ」。21 回目となる今回は高杉こどもクリニック（総社市井手）の院長として、AMDA に温かいご支援を頂いている高杉尚志様にお話を伺いました。（聞き手・広報担当参与 今井康人）



小児感染症学会で、菅波理事長が講演されました。私自身も世界に関心がありまして、いろんな話を聞かせてもらいました。

**AMDA** 菅波の印象はいかがでしたか。

**高杉** 時代の先をじっと見つめられており、親しみやすい先輩のような存在でした。ネパールの子どもたち

への関わりを依頼され、価値観も広がりました。

**AMDA** その後ネパールに出向かれています。印象はいかがでしたか。

**高杉** ネパールの乳幼児死亡率は高く、医療は充分とはいえませんでした。子ども達は活力に溢れ、家族は幸せを感じて生きていました。日本は、乳幼児死亡率は低く医療は発達していますが、一概に皆が幸せとは言えない状況にあります。その後参加したモンゴルの巡回診療でも同様のことを感じ、日本の医療技術の一方的な導入ではなく、ネパールやモンゴルの国民・医療者が自ら進む方向を決めることが必要だと気がつきました。

**AMDA** 今後の抱負を聞かせてください。

**高杉** 災害医療に関しては、水害や地震で被害を受けてもすぐに復興でき地域を支えるクリニックづくり。小児科医としては、長期的な視点で子どもや家族が幸せを感じて生きられ、永続可能な社会になるように自ら行動していきたいと思っています。

## オユンナ氏 AMDA モンゴル支部長



モンゴルでは子どものヘルスケアの向上が求められており、今後、小児科の分野で、より層の協力が必要です。モンゴルの巡回診療で高杉先生の活躍は目覚ましく、現地の子供や親達もとても満足した様子で、非常に有意義な経験となりました。先生の人柄と医師としての在り方を尊敬しています。

# ネパール ダーディン郡における災害後のヘルスプロモーション・プロジェクト

東京大学大学院国際地域保健学教室 神馬 征峰

2015年4月25日に発生した大地震とその余震によってネパールの人々の生活は打撃を受けました。全人口の20%が重度、17%が中程度の被害を被り、全75郡中31郡、その内14郡に深刻な被害が及びました。死者は約9,000人、負傷者は約18,000人に上りました。

本事業の対象となったダーディン郡は最も被害を受けた14郡の一つです。推定733人の死者と、多くの負傷者が出ました。医療施設や保健サービスも被害を受け、53医療施設の内、被害を免れたのは7施設だけでした。学校や教育セクターの被害は7万人の生徒に及びました。こうして公立セクターが被害を受けたため、被災者は公的支援以外の方法で健康を守る必要がありました。

そこで、ネパールの現地NGOであるグリーン・タラ・ネパール（以下GTN）は、同郡の被害を把握するために初動迅速アセスメントを行いました。その結果、まずは、緊急の基本的サービス（食料、避難所、水や衛生）の他に、心理社会的支援や基本的教育を優先事項として取り上げることになりました。特に思春期の女性や妊産婦は支援を必要としていました。

限られた災害支援を続ける中、GTNは、特定非営利活動法人アムダ（以下AMDA）、日本医師会の資金援助を受け、東京大学チームと連携して、同年、災害後ヘルスプロモーション・プロジェクト（以下PDHPプロジェクト）の実施を決定し、ダーディン郡で活動を開始しました。



GTNのヘルスプロモーターによる母乳推進教育活動の様子



プロジェクト開始時の情報シェアリング会議の様子  
(右 神馬征峰教授)

## ◆目標と介入策

本プロジェクトは女性と思春期の女子のリプロダクティブ・ヘルス（新生児を含む）や家族計画サービスの改善を目標としました。

## ◆対象地域と対象者

対象地域は地震の影響を大きく受けた7村（VDC）の中でも社会的地位が低い、もしくは周縁化されたコミュニティで、対象者は再生産年齢の女性と学生です。

## ◆プロジェクト期間

2015年7月から2019年1月で、準備期間を経て2016年1月よりコミュニティで、レベルでの介入を開始しました。

## 【まとめと提言】

震災後、ネパールを支援する海外の開発機関のほとんどはインフラ整備やリハビリ支援を優先し、女性や子どもへの基本的なケアや支援は顧みられなくなっていました。とりわけ、母子保健分野のヘルスプロモーションは見送られていました。その点、ダーディン郡でのプロジェクトはユニークであり、人々のニーズを満たす役割を果たしました。

プロジェクト後に活動評価を行った結果、精神保健指標は介入前後で変化は見られず、十代の結婚や妊娠は目標とは反対に増えていました。しかしながら、介入後、その他の目標についてはそのほとんどを達成することができました。とりわけ、妊娠、出産、産後の適切なケアを受けるための項目は、顕著に改善していました。住民参加によって得られたこれらの活動成果は今後も維持できる可能性が高いです。

## 災害鍼灸の役割と効果

帝京平成大学ヒューマンケア学部鍼灸学科 教授・AMDA 災害鍼灸ネットワーク 代表世話人 今井 賢治

AMDA は 2011 年の東日本大震災より、鍼灸治療を緊急医療支援活動に導入しました。以来、福知山市浸水被害 (2014)、広島土砂災害および熊本地震 (2016)、西日本豪雨 (2018) において鍼灸師の派遣を行ってきました。

また、東日本大震災と熊本地震では現地鍼灸師による復興支援活動が長期的に行われました。これらの活動を通して『災害鍼灸』の役割は大きいものと実感します。対象症状は、腰痛、頸肩部痛 (肩こり)、膝痛、四肢痛、頭痛、不眠、下痢や便秘、頻尿、疲労・倦怠感など、様々な症状に対応してきました。

東日本大震災の際、大槌高校に避難されていた方々から、「医療救護室に行くと救急患者の診療に支障がでると

いけない」、と遠慮の声を多数聞きました。鍼灸治療室ができたことで受療のハードルが下がり、症状を我慢していた方々に治療を提供できた事は意義深いです。

熊本地震では、益城町立広安小学校の保健室で医科診療とともに鍼灸治療を行いました。西洋医学と東洋医学が相互に連携した、いわゆる補完医療の実践となりました。救護所に来られた方々からは、「安心して治療を受けられる」という声が聞かれました。また、亜急性期から慢性期にかけて鍼灸が医科の受療者数を上回るようになりました。長引く避難所生活では、鍼灸の適応であるストレス症状や慢性疼痛が多くなることがその理由でしょう。さらに復興支援活動として、熊本鍼灸チームによるメンタルサポートが多職種連携の中で行われ高い評価を得ました。

西日本豪雨の際は、四肢痛や、頸部痛、頭痛が多く、AMDA はこの時から積極的にマッサージを導入しました。災害時における「手当」の意義は大きく、今後は幅広い東洋医療技術の活躍を期待できます。

2012 年から災害鍼灸活動での様々な連携の構築、問題点や課題の抽出から改善までを取り上げる『災害鍼灸チーム育成プログラム』を開催してきました。本年も 7 月 27 ~ 28 日の開催を通して、更なる支援チームの充実に向かいます。



西日本豪雨災害での鍼灸治療の様子

## Tsubomi 2018 年度 / 東日本復興委託事業報告

一般社団法人 Tsubomi 代表理事 大久保 彩乃

岩手県大槌町の復興再生と地域住民の心身の健康、コミュニティの向上を目指しました。地域交流会、郷土料理教室を実施し年代を超えた触れ合いや食文化の伝承の機会となりました。リラックス効果のあるアロマ講座、ボタニカル講座では参加者から「心がほぐれていくのがわかった。」との声がありました。子育て支援は、親子アクセサリ講座、スポーツ講座の他、発達障がいのある子どもを含む子育てセミナー、乳幼児のわらわらうたベビーマッサージ、子どもと楽しむ季節行事など多彩に開催されました。講座では、町民生活の変化の中で昔の暮らしや経験を若い世代に伝えました。参加者からは「子どもや親同士の交流を屋内外で体験でき、子どもへの接し方を学び相談できる場があると安心して子育てができる」との反応がありました。また、支援団体である「おかやまコープ」の大槌訪問・視察を受け入れ、震災前から現在までの町の歩みを説明し、8 年経った町の様子や課題を伝えました。2018 年度をもち委託事業は終了となります。皆さまのご支援に心より感謝と御礼申し上げます。



子育て支援活動のベビーマッサージの様子

## インド・大型サイクロン・ファニ被災者に対する支援活動

20年に1度と言われる強い勢力を持ったサイクロン「ファニ(Fani)」が5月上旬、インドとバングラデシュを襲いました。インド東部の海岸沿いにあるオディシャ州を含む、災害被害が予測された地域では100万人以上に避難指示が出され、事前避難することで多くの命が救われました。一番被害の大きかったオディシャ州では死者38人、14地域1600万人以上が被災しました(インド・オディシャ州6月4日発表)。

AMDAは発生直後よりインド支部と連絡を取り合い、活動への調整を行っていました。5月17日にはインド支部より医師1人をオディシャ州へ派遣し、現地調査を行



いました。結果、多くの家が被災し、停電が続く中、避難所から一時的に家に帰って片付けをしている被災者がいることが分かりました。修復前の家を覆えるよう、ブルーシートを配布することを決定し、翌18日には、現地協力団体セワ・バラティと協力して、AMDAはサイクロン被害の大きかったオディシャ州プリ地区にある5つの村で計25張りのブルーシートを配布しまし

た。物資を受け取った男性は、「いただいたものは、壊れた屋根を覆ったり、一時的な雨よけ用テントとして使用する予定だ」と話しました。村では、早く元の生活に戻ろうと、サイクロンで割れてしまった土鍋を新たに作っている様子も見られました。(インド担当 岩尾 智子)

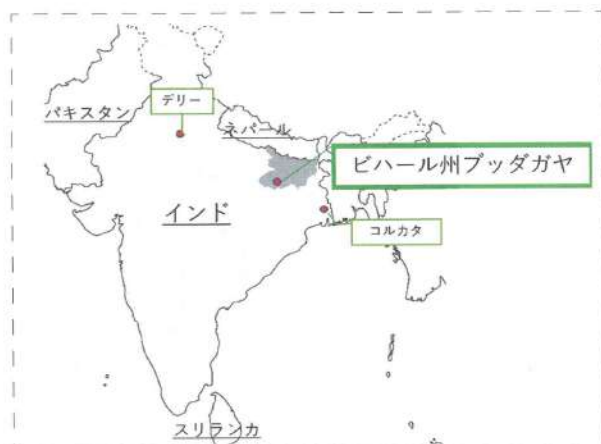
## AMDA ピースクリニックの挑戦

### \* 母子保健活動 \*

釈迦牟尼が悟りを開いたとされるインド・ビハール州ブッダガヤ。総レンガ造りの高さ52mの寺院がそびえ立っています。仏教徒憧れの聖地「大菩薩寺(マハーボディー寺院)」で、ユネスコから2002年、世界遺産に登録されました。

この寺院から南西へ約1km。2009年に開院されたのが、AMDA ピースクリニックです。地元民から「ブッダガヤは貧しい。近所に気軽に行けるクリニックが欲しい」という声に応え、日本の篤志家から支援を受けて実現しました。

活動を行う中で、現地で目立つ早産や流産を未然に防ぐため、2014年から母子保健活動に重点を移すことになったのです。取り組みは「月2回の妊産婦健診」「毎月1回程度の家庭訪問」「健康教育・栄養プログラム」の3本柱で、受診料は栄養サプリメント・医薬品



## インド・ビハール州ブッダガヤ ㊤



AMDA ピースクリニック入口

を含め1回20ルピー(約30円)と、受診しやすい価格設定にしています。ビハール州の農村部では、州人口の3分の1が1カ月778ルピー(約470円)で暮らしています。

主な産業は農業・酪農。女性の約半数は字が読めません。そのため、活動の中で妊産婦に情報を伝達する際には工夫が必要です。

ビハール州では、10万人の出生あたり妊産婦208人(日本は34人)が死亡している深刻な状況にあります。AMDAは母子が健康で住みやすい環境づくりに向け、中長期的な視点で取り組みを継続する方針です。

(インド担当 岩尾 智子)

AMDA ピースクリニックの挑戦は、今回を含め3回シリーズで報告させていただきます。ジャーナル秋号で「支援医師の思い」、冬号で「信頼関係の構築」を掲載します。

## モンゴル国 医療技術移転事業（救命救急・内視鏡）

AMDA は、モンゴルにおいて協力協定を結んでいる組織との共同事業として2017年より毎年1回、AMDA 理事、佐藤拓史医師による救命救急と内視鏡の技術移転事業を行っています。本年は、4月26日から5月5日まで首都ウランバートルとオルホン県エルデネットにおいて実施されました。

### \*救命救急技術移転事業

ウランバートルエマージェンシーサービス 103 との共同事業として、4月27日、28日、ウランバートルから車で7時間、オルホン県エルデネットの病院で行われた研修には、地元医療関係者延べ100名が参加し、外傷治療に必要な超音波診断（FAST）、骨髄内輸液、心嚢穿刺、外科的気道確保などの手技の習得を目指しました。これらの手技は外傷治療において不可欠であり、参加者は超音波や骨髄針を実際に手に取って実習を行いました。



自分の輪状甲状靱帯を確認

5月4日には、ウランバートルエマージェンシーサービス本部において、過去2年間の研修を受けた医師を対象にOSCE研修（救命救急の現場状況のシナリオに従って診断、処置を想定するトレーニング）を取り上げました。「救急搬送中の必須の処置についての理解を深める内容で、救命救急医としての自覚と認識を問うセミナーでした。」と署長のプレブダッシュ医師から高い評価を受けました。このような実習を主体とした参加型のセミナーに対し、受講者からも体験を積む一つの機会として大変意義深い講習であったと好評でした。

### \*内視鏡技術移転事業

モンゴル国立医科大学との協力協定の下、4月29日から5月2日、内視鏡技術移転事業が行われました。モンゴルでは癌の中で一番多いのは胃がん。その80%近くがステージⅢかⅣで発見され、1年生存率が18%と驚くべき低さです。



上部内視鏡検査を指導

今回、内視鏡室長オユンチェェグ医師とともに佐藤医師は、内視鏡検査技術を実際に見せながら隅々まで精細な観察と確実な診断を行う必要性を強調しました。この期間に70名の患者さんが上部下部内視鏡検査を受けました。今回の症例は上部では逆流性食道炎、HP感染、胃ポリープなど、下部では潰瘍性大腸炎、虚血性腸炎、大腸ポリープなどで、生検を行ったケースはありましたが、悪性の診断に至るものはありませんでした。また、昨年、岡山県の事業として岡山済生会総合病院で学んだ医師自身が早期胃癌を3例発見できたという報告を受け、大きな成果を確信しました。今回、最も喜ばれたのは、福岡徳洲会病院よりお借りした大腸カメラのシミュレーターによる実習でした。S状結腸捻転などの困難な症例を設定して治療できる事を目的とし、その研修は毎日遅くまで行われました。加えて日本のODAで建設された日本モンゴル教育病院が6月に開院する前に、新しい病院内の内視鏡室の動線などについてのアドバイスも求められました。モンゴル消化器学会会長より、この事業が確実に次世代の医師たちの技術向上に貢献していることに対する感謝とともに、高度な技術習得のための事業継続を要請されました。（AMDA 理事 難波 妙）

### ～モンゴル消化器学会会長 ダーヴァドルジ教授からのメッセージ～

佐藤先生にはこれまでも、モンゴルでの内視鏡技術指導を行っていただきました。今年で3回目になります。緊急内視鏡医療、ESD、大腸カメラなどモンゴルの若い次世代の医師にとって大切な技術を学ぶ機会となりました。長年にわたってご指導いただいている佐藤先生に心よりお礼を申し上げます。また、AMDAにもこれまでのご尽力に感謝いたします。



左：ダーヴァドルジ教授 右：佐藤医師

## AMDA カンボジア 2018 年度活動報告

AMDA カンボジア支部（支部長：シエン・リティ医師）は2018年度も株式会社山一観光様のご支援をいただき、青少年を対象にHIV/エイズ、性感染症や性教育などに関連した3つのプロジェクトを実施しました。

HIV/エイズプロジェクトでは、HIV/エイズに関する情報の流布、教育やコミュニケーション用ツールの開発やTシャツ製作など、様々な形で啓蒙活動を実施。また、州の保健局と「2025年までにカンボジアのエイズ問題を解決する」をテーマに世界エイズデーを開催。関係者やボランティア、HIV/エイズとともに生きる人々など300人以上が



集まって行進などを行いました。

更に、若者のスポーツ参加を促すことで薬物依存や犯罪、暴力を阻止しようと、サッカークラブを主催。今年度は地元大学と協力し、選手の育成と活動に取り組みました。更に、地元大学およびNGO団体Action for Healthと共催で、リプロダクティブヘルスや性教育をテーマとした青少年フォーラムを開催。会場には100名の学生やボランティアが集い、性感染症、家族計画や若者の皮膚疾患、骨粗鬆症等に関する基礎講義や質疑応答が行われました。（GPSP 支援局 総務担当 ブルックス 雅美）

## 西日本豪雨、ぶどうの家で「縫い真備」スタート

西日本豪雨の際、壊滅的な被害を受けた岡山県倉敷市真備町唯一の小規模多機能施設ぶどうの家真備は、2019年3月に元の地に戻りました。それまで使用していた一軒家の仮設住居が、地域の方が集う開かれたコミュニティハウス「ぶどうの家 BRANCH」として使用されることとなり、その中で地域女性が「なにか自分たちで役立てることはないか」と、AMDAに声をかけてくださいました。そこで、登場したのが縫い物ボランティア「縫い真備」。緊急救援の派遣に使用するユニフォームのゼッケンを手際よくミシンで縫い上げてくださっています。

お話をしながら、地域の方が一緒に過ごすひとときとなっています。AMDAにとっても大助かり。「困った時はお互いさま」が実現しています。（プロジェクトオフィサー 橋本 千明）



## 生きることの尊さを強調

## 難波理事がノートルダム清心女子大で講演

AMDAの難波妙理事（世界平和パートナーシップ構想支援局長）は2019年6月6日、母校のノートルダム清心女子大学（岡山市北区伊福町）で、「他者と共鳴する力～国際医療ボランティア活動の現場から～」と題して講演しました。人間生活学部と文学部の1年生約500人が聴講。

難波理事は、AMDAの理念「多様性の共存」や「人道支援の三原則」などを説明した後、ある出来事から人生を考え直す必要性を感じたことがAMDAに入る契機となったと述べました。

豊富な国際体験を基にこれまで出会った世界の女性たちを紹介。「使命を追求するたくましさ」「生きてさえいれば日々は確実に希望につながっていく」「見過ごせば何も変わらない」「共に勤しむ」—ことなどを学んだと紹介しました。

難波理事は在学中、病気や貧困に苦しむ人々に献身的な取り組みをしノーベル平和賞を受賞したマザー・テレサの講演を聴いた際、渡辺和子先生（名誉学長）の通訳

がまるでテレサ本人が話しているような印象を受け、強い衝撃とともに「語学の原点を教えられた」と話しました。卒業後、JR岡山駅で偶然出会った時も、「渡辺先生の言葉に震えが止まらなかった」と振り返り、「素晴らしい大学を卒業できたことを誇りに思う」と後輩に呼び掛けました。



熊本地震で実家が全壊、西日本豪雨で被害を受けた岡山県総社市に住む難波理事は「災害は他人事ではない」としたうえで、「どんな状況に出逢っても何としてでも生き延びてほしい。生きることは尊い。絶対にあきらめないで!」と訴えました。

難波理事は6月11日にも、英文科3年生約30人を対象に同様の趣旨の講演をしました。

（広報担当参与 今井 康人）

## 世界の共通言語は「ありがとう」

## 菅波理事長が高屋中学校で講演

AMDA の菅波茂理事長は 2019 年 6 月 1 日、岡山県井原市高屋町の高屋中学校で「違いは財産 多様性の共存」と題し、人権教育について講演しました。

菅波理事長はまず国際社会での中学生の役割について説明。身近な例として 30 年間続いたスリランカの民族紛争などを例に挙げ、対立する民族の子ども同士の間にも日本人の子どもが入って交流することを企画、



サッカーなどを通してお互いが打ち解け、取り組みが成功したことを伝えました。

国際社会の中で日本人が好かれる理由として、子どもは母親から家庭で「人に迷惑を掛けない」「嘘を言わない」「困った人がいたら助けなさい」と育てられていると指摘。国の違いを超えて共通しているのは「ありがとう」という感謝の言葉であり、「ありがとう」が友だちや親子、学校、地域内で広がっていくことを願っていると結びました。

講演会は同校 PTA が主催。全校生徒と父母ら約 200 人が出席しました。菅波理事長のユーモラスな話しぶりに会場は笑顔であふれ、なかには目頭をハンカチで押さえる母親の姿も見られました。

(広報担当参与 今井 康人)

## AMDA 東日本復興支援「復興グルメ F-1 大会 in 南三陸」開催とボランティアバス運行のお知らせ

2019 年 11 月 24 日に「第 16 回復興グルメ F-1 大会」が宮城県南三陸町で開催されることが決まりました。本大会の開催に伴って、ボランティアスタッフ用のバスを運行し、前日の会場準備および当日の運営をお手伝いして下さるボランティアスタッフを募集します。これは AMDA が東日本復興支援事業として行っている「被災地間交流事業」の一つです。被災地の視察や復興について考える研修の時間や地元の方との交流会を設けます。たくさんの方のご協力・ご参加をお待ちしています。詳しくは HP をご覧下さい。



第 13 回南相馬市 F-1 大会の様子

### AMDA の活動は皆様からのご寄付で実施されています

平素より AMDA の活動にご支援くださりまして、ありがとうございます。AMDA は今年度も国内外の支援活動に取り組んで参ります。中でも 2019 年度、特にご支援をお願いしたいプロジェクトをご紹介します。

(プロジェクト名)

- ・インドブッダガヤ医療支援 ▶▶▶ クリニックの治療や薬に使われ住民の健康増進を図ります。
- ・ネパール医療支援 ▶▶▶ ネパールの病院の機材や医療品に使われます。
- ・内視鏡技術移転 ▶▶▶ 海外の専門医の育成と普及により、病気の早期発見、治療を目指します。
- ・緊急人道支援 ▶▶▶ 国内外の自然災害救援活動に使われます。
- ・災害事前対策 ▶▶▶ 南海トラフなど大規模災害時、迅速に活動するための準備に使われます。
- ・中学高校生会 ▶▶▶ 青少年のボランティア育成と国際理解教育を推進します。
- ・次世代人財育成事業 ▶▶▶ 海外の学生への奨学金、海外の医師の招へいなどの育成に使われます。

★指定プロジェクトが終了した場合は、「AMDA の活動全般」とさせていただきます。

★ジャーナルに同封する郵便振込票は、すべての方に会費・寄付金を催促するものではありません。

NPO 法人 AMDA へのご寄付は寄付控除の対象になります。

ご寄付の際にプロジェクト別のご寄付指定も可能です。



書き損じハガキ、未使用切手を集めております。通信費の節約に役立たせていただきますので、ぜひご協力をお願いいたします。



VISA・JCB などのクレジットカードでのご寄附も取扱いできます。また PAYPAL 決済も導入しております。詳しくはホームページをご覧ください。